

## 令和6年度第3回鳥取県教育審議会生涯学習分科会兼鳥取県社会教育委員会議の概要について

令和7年4月14日 社会教育課

- 1 日 時 令和7年3月18日（火）午後1時30分から午後3時まで
- 2 場 所 県立倉吉体育文化会館 小研修室1
- 3 出席者 別添のとおり
- 4 会議概要

### （1）意見交換

- ・「今後の生涯学習のあり方」（答申）について
- ・県の生涯学習振興施策の現状・成果と課題について

県教育委員会からの諮問「今後の生涯学習のあり方について」（令和6年11月）への答申に向けて、答申の構成（素案）等について事務局から説明を行った。また、県の生涯学習振興施策の主な取組や成果、課題について意見交換を行った。

#### 〈委員からの主な意見〉

##### （とっとり県民カレッジについて）

- ・市町村連携講座の受講者数増加が課題として挙げられているが、大阪のNP0 法人が県民カレッジと似たような生涯学習事業をしており参考になる。大阪のNP0 法人は、年に何度も講座を開催し、受講する側から次第にサポーターになって、ゆくゆくは講座を提供する側になるという仕掛けになっている。
- ・市町村連携講座は単発での実施になっていたり、受講者が思うように集まらなかったりといった課題がある。県は地方公共団体として、広域で、公共的な取組を行っていただかなければならないと思う。
- ・倉吉市で行った市町村連携講座では、生涯学習センターと共催で実施した講座を参考にして、現在は市独自で継続して実施している。県と一緒に講座を実施した後、市町村が参考にしながら継続していくというのも1つの方法。市町村の自発的な取組を促すのも県の役割だと思う。
- ・県民カレッジの参加者が少ないと感じている。県でなければできないこと、例えば市町村の様々なものをつなげるプラットフォームを作ったり、講座の情報発信を工夫したりすることができればよいと思う。企業が実施している「大人の社会科見学」は県民の関心が高い。関心があれば会場が遠くても県民は参加する。
- ・鳥取大学の特別講座が好調。県立図書館を会場とし、県内の図書館でライブ配信をしているのが良いと思う。また、個人に向けてもライブ配信をしており、会場に来られなくても講座を聞いてくれる人が非常に増えた。今までの参加者のメールアドレスを収集し、大学から直接、講座情報を提供するのが一番効果的。リピーターを育てるのがよい。どういう形で参加者を集めるか、広報について検討が必要と考える。鳥取大学はリカレントに力を入れていくことにしており、県と生涯学習の連携を深めていきたい。

##### （生涯学習のあり方等について）

- ・県がどのような生涯学習のあり方を目指すのか、県民に届きやすい形で伝えていただきたい。生涯学習、社会教育は誰をターゲットにしているか。高齢者や退職された方、子育て中の母親が講座等に参加されている印象があるが、そういうイメージにとらわれることなく、すべての県民が対象であることをわかりやすく伝えることが必要。
- ・生涯学習が誰を対象にしているのか。ニーズはどうか。県民が何を求めているか。ニーズに合うようなものを作り上げていかないといけない。アンケートを取るにしても、それをどのように生かして、どう結びつけるか。県民に身近なものを提供し、どうPRしていくかを考えていただけたらと思う。
- ・他の分野との繋がりが大事だと思う。福祉分野は福祉分野で、地域づくりの分野は地域づくりの分野で活動するのではなく、繋がるともっと活性化すると思うので、広い視点で考えていただきたい。
- ・講座のハードルが少し高いと感じる。難しい言葉で広報すると、「意識の高い方が講座を受けられるのだろう。自分には関係ない」と思われてしまうので、取っつきやすいような広報をしていただくのが良い。
- ・保護者だけでなく、子どもと一緒に学べる講座や場所があると、子どもたちも興味を持って参加できて良いと思う。船上山少年自然の家や大山青年の家は親子で学べる場であるが、例えば東部からは遠い。近場でワークショップがあれば、親子で楽しんで学べて良いと思う。
- ・「子ども科学電話相談」というものがあるが、大人でも、例えば自然現象などで不思議だなと思うことがあるので、簡単に質問できるような場所があると良いと思う。博物館等で答えていただけるような講座があると親しみを持てると思う。

#### (コミュニティ・スクールについて)

- ・教員に、なぜコミュニティ・スクールが必要か理解されていない印象がある。県主催のコミュニティ・スクールの研修会等に参加する教員は少ない。教員が参加しやすい形態で研修会を開催すると、理解も深まるのではないかな。
- ・「社会に開かれた教育課程」について、小学校ではふるさとを大事にするということを進めているが、地域のことを学習するには地域の方の力が必要。公民館に依頼すると学習に合った地域の方を人選してくださり学習が深まるが、ボランティアの方が高齢になっている。

#### (青少年社会教育施設について)

- ・倉吉市の小学校は船上山少年自然の家で宿泊体験をしているが、子どもたちに好評で、下級生も楽しみにしている様子。学校の働き方改革とは言っても、子どもたちにとって必要な活動はやるべき。
- ・船上山少年自然の家は施設が古いので(例えば、トイレが和式で子どもたちは慣れておらず不安がる)、改善していただけると子どもたちも使いやすい。費用は掛かるが、子どもたちが安全に利用できる施設の整備をお願いしたい。
- ・施設利用者のリクエストを受け入れていただくのも大事ではないかと思う。ボーイスカウトと、一般の方や学校教育での利用とは、施設の利用の仕方が異なるが、リクエストを受け入れてもらうと、利用する機会が増えるのではないかと思う。施設があっても使い勝手が悪かったら使えないので考えていただきたい。

#### (答申に盛り込む視点等について)

- ・諮問の「生涯学習で得た学びの成果を地域で発揮できる施策」については、人口減少が進む中で重要になってくるので、しっかり審議会で考えていく必要がある。
- ・若い世代の参画や、義務教育を終えた高校生の参画について答申に入れていきたい。鳥取県の探究学習は他県と比べて非常に進んでいる。コミュニティ・スクールで地域のボランティアの方に関わってくださっているのが、他県に比べて鳥取県のいいところだと思う。子どもたちと地域の関わりを、うまくサイクルとして回るように、子どもたちの参画という視点を答申に入れていきたい。
- ・県は、全県民を対象にして取組を進めること、また、市町村に対して推進を促すという2つの役割がある。市町村の場合は直接住民に対してアプローチができるので比較的施策を進めやすいが、県は難しい。国の役割、県の役割、市町村の役割を考えた上での答申にしなければならない。
- ・県には、市町村の取組を発信するためのコーディネーター的な役割が求められるのではないかな。県の役割を強く打ち出すような答申にしていきたい。

#### (その他)

- ・社会教育主事は必置だが、市町村によって配置にばらつきがある。日南町や南部町は多く配置されている。配置に向けて市町村への補助や支援を検討していただきたい。
- ・社会教育関係団体の会員数が少なくなっているのは、核家族化等の社会情勢が原因ではないかと考えている。またPR不足も原因かもしれない。

## (2) 事務局報告

### 鳥取県子どもの読書活動推進ビジョン(第5次計画)について

3月15日の定例教育委員会で議決された「鳥取県子どもの読書活動推進ビジョン(第5次計画)」について事務局から説明を行った。

#### (事務局の報告概要)

- ・当委員会の委員から頂戴したご意見も踏まえ、第5次計画を策定した。
- ・基本理念として、「すべての子どもが読書に親しみ、心豊かな経験を通して生きる力をはぐくむ」ことを掲げており、本を読むことに困難を感じている子どもたちも含め、本に親しむ環境づくりを進めていきたい。幼い頃から本の楽しさに触れるとともに、急激に変化していく社会の中で、子どもたちに読書を通じて生きる力を身につけてもらいたい。
- ・計画を実現するためには、家庭や地域、学校はもちろん、社会全体で連携して子どもの読書活動を推進する機運を高めていくことが必要。幼い子どもたちは自力で本に出会うことが難しいので、大人が子どもと本をつなぐことが非常に重要。教員や図書館職員が中心となって、子どもの読書活動に取り組んでいるが、保護者や、公民館・児童館の職員等、子どもの身近にいる大人が、子どもの読書活動の意義をしっかりと理解していただけるように進めていきたい。

## 令和6年度第3回鳥取県教育審議会生涯学習分科会兼鳥取県社会教育委員会議名簿

氏名	所属・職名等	備考
池田 緑	鳥取県子ども読書アドバイザー	
植田 紀子	株式会社新日本海新聞社編集制作局報道部長	
大堀 貴士	認定特定非営利活動法人ハーモニカレッジ理事長	
川口有美子	公立鳥取環境大学環境学部准教授	会長
木村 佳奈	南部町地域おこし協力隊	欠席
小林まゆみ	鳥取県連合婦人会	欠席
清水 秀満	鳥取市美保南地区公民館長	副会長
清水まさ志	鳥取大学地域価値創造研究教育機構准教授	
高尾 裕子	鳥取県PTA協議会長	
竹本 幸子	北栄町立北条こども園長	
中田 寛	倉吉市教育委員会教育長	
福田 範子	日南町教育委員会事務局教育課総括室長兼生涯学習室長	
森脇 昇	日本ボーイスカウト鳥取連盟副理事長	
淀瀬 由美	倉吉市立上北条小学校長	